

松山町埋蔵文化財発掘調査報告書 (13)

—農地侵食防止(県営シラス対策)関連事業池袋地区に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書—

いけ ぶくろ
池 袋 遺 跡

1998年3月

鹿児島県曾於郡松山町教育委員会

序 文

秦野内ノ野池袋地区の農道を農地侵食防止（県営シラス対策）関連事業で整備するにあたり、平成7年度に行った分布調査を行い、この地域は埋蔵文化財の包蔵地にあたりとわかったので、池袋遺跡を平成10年1月9日から平成10年3月19日までの間発掘確認調査をしました。調査面積は48m²になりました。その結果工事予定区内に遺跡が存在することが確認されたので今回の全面調査を行うことになりました。

全面調査を行ったところ、多数の遺物が出土しましたが、住居跡などの遺構は発見されませんでした。住居跡などの重要な遺構はそう簡単には見つからないものだと実感しました。

最後になりましたが、積極的に発掘調査に従事していただいた方々、また精力的に御指導いただいた県教育庁文化課の先生方に厚く御礼申し上げます。

平成10年3月

松山町教育委員会

教育長 川 畑 禮 二

例 言

1. 本報告書は、平成9年度に実施した農地侵食防止（県営シラス対策）関連事業池袋地区に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は県の受託事業として松山町教育委員会が実施した。
3. 発掘調査の実施及び実測は上田義明が行った。
4. 発掘調査の現場写真・遺物写真は上田義明が撮影した。
5. 本書に用いたレベル数値はすべて海拔絶対高である。
6. 本報告書の執筆・編集は上田義明が行った。
7. 発掘調査後の整理作業は松山町歴史民俗資料館で行った。
8. 出土遺物は、報告書作成終了後、松山町歴史民俗資料館で保管し、展示・活用する計画である。

報告書抄録

ふりがな	いけ ぶくろ い せき				
書名	池 袋 遺 跡				
副書名	農地侵食防止(県営シラス対策)関連事業池袋地区に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書				
巻次					
シリーズ名	松山町埋蔵文化財発掘調査報告書 (13)				
シリーズ番号					
編著者名	上 田 義 明				
編集機関	松山町教育委員会				
所在地	〒899-7601 鹿児島県曾於郡松山町新橋268番地				
発行年月日	1998年3月31日				
ふりがな	いけ ぶくろ い せき				
所収遺跡名	池 袋 遺 跡				
所在地	鹿児島県曾於郡松山町泰野池袋				
調査期間	1998.1.9 ~ 3.19				
調査面積	420㎡				
調査原因	農地侵食防止(県営シラス対策)関連事業池袋地区				
出土遺物・遺構等	主な時代	主な遺構	主な遺物	出土量	特記事項
	縄文時代 弥生時代		縄文時代前期 中期 後期 晩期 弥生時代中期	パンケース 6箱	

本文目次

序文

例言

報告書抄録

第1章	調査の経過	1
第1節	調査に至るまでの経過	1
第2節	調査の組織	1
第3節	調査の経過	1
第2章	調査の概要	6
第1節	調査の概要	6
第2節	標準土層	6
第3節	出土土器・石器	7
第3章	まとめ	13

挿図目次

第1図	池袋遺跡位置図	3
第2図	池袋遺跡グリッド配置図	4
第3図	遺物出土状況	5
第4図	土層模式柱状図	6
第5図	出土土器（1）	8
第6図	出土土器（2）	9
第7図	出土土器（3）	10
第8図	出土石器（1）	11
第9図	出土石器（2）	12

表目次

第1表	出土土器観察表	7
-----	---------	---

図版目次

図版1	池袋遺跡遠景	14
図版2	遺物出土状況（1）	14
図版3	遺物出土状況（2）	15
図版4	層位断面図	15

第1章 調査の経過

1) 調査に至るまでの経過

鹿児島県農政部（大隅耕地事務所）は、曾於郡松山町泰野池袋地区において農地侵食防止（県営シラス対策）関連事業を計画し、実施計画地区内における埋蔵文化財の有無について、鹿児島県教育委員会文化課に照会した。

これをうけて、平成7年4月、県文化課で当該地区の分布調査を実施したところ、工事実施予定区域内に池袋遺跡の存在していることが確認された。この結果に基づき、松山町教育委員会が調査主体となって、遺跡の範囲・性格等を把握するための発掘確認調査を実施することとなった。確認調査を平成9年1月20日から平成9年2月7日まで実施した結果、工事予定区内に遺物の分布が確認された。県農政部（大隅耕地事務所）と松山町教育委員会が協議をした結果、発掘調査を実施することになった。

発掘調査は県農政部（大隅耕地事務所）からの受託事業として、松山町教育委員会が調査主体となり、平成10年1月9日から平成10年3月19日まで実施した。調査面積は計420m²である。

2) 調査の組織

調査主体者	松山町教育委員会			
調査責任者	松山町教育委員会	教 育 長	川畑 禮二	
調査事務担当者	〃	管 理 課 長	白坂 泰雄	
	〃	参事兼指導主事	新村 隆実	
	〃	主 査	福岡 百子	
	〃	主 事	加世田和彦	
	〃	社会教育課長	迫田 正弘	
	〃	主 査	福留 栄行	
	〃	派遣社会教育主事	田淵 省二	
	〃	主 事	上田 義明	
	〃	社会教育指導員	木藤 茂弘	
	〃	庶 務 係	早崎ゆう子	
調査担当者	松山町教育委員会	主 事	上田 義明	

なお、調査の企画等において県教育長文化財課長立園多賀生氏、同課長補佐兼係長山田孝志氏、同主任文化財研究員兼埋蔵文化財係長戸崎勝洋氏の各氏のほか同企画助成係の指導助言を得た。

3) 調査の経過

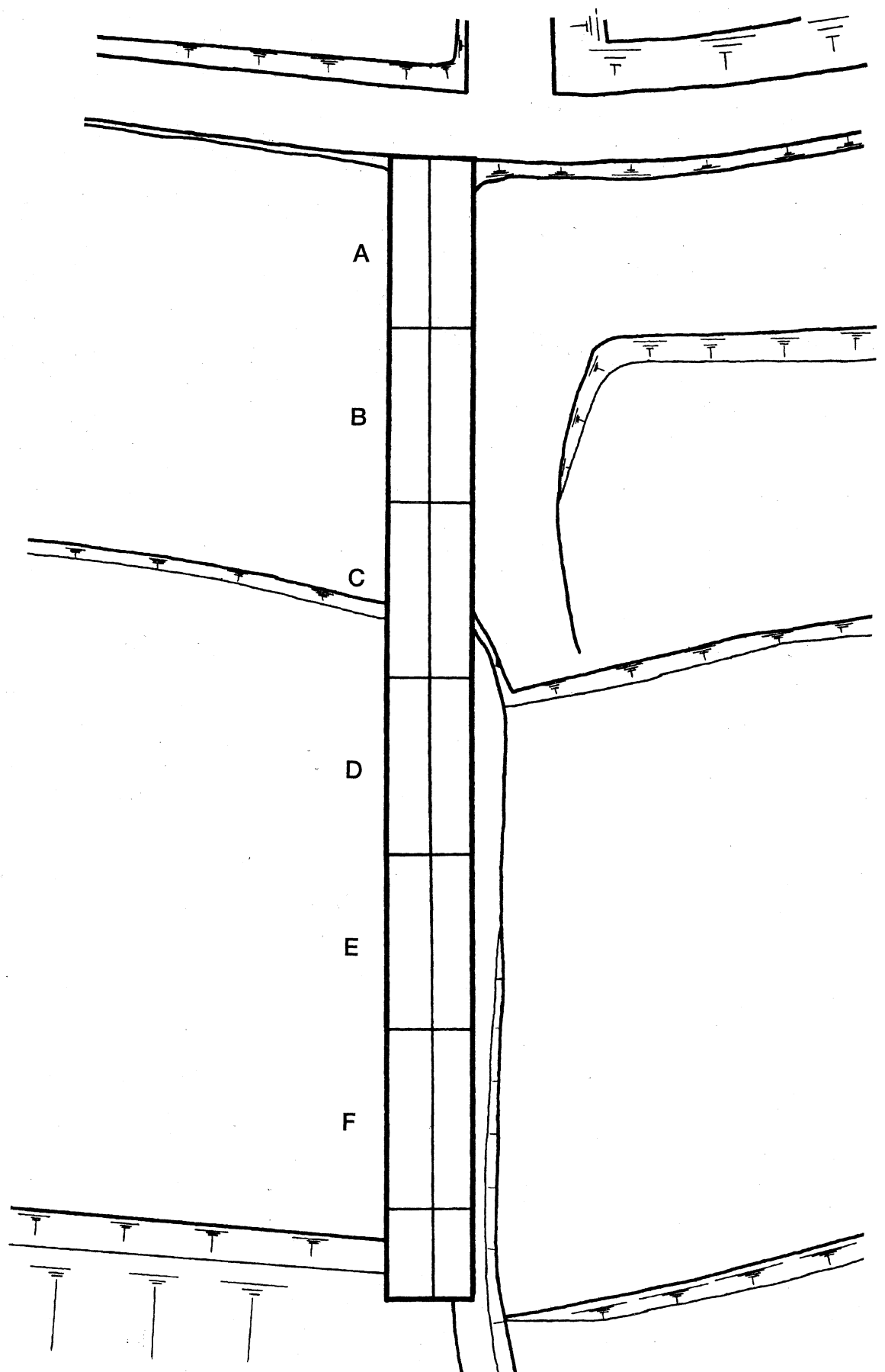
- 1月9日（金） 調査開始。重機を使って表土から2層を掘あげる。
- 1月12日（月） 調査機材の搬入。発掘調査についての説明。AからG区画までグリッド設定。
- 1月13日（火） A区画3層上面より掘り下げ開始。全区画3層より土器片多数出土。
- 1月16日（金） D区画より溝状遺構検出、埋土内より陶器が出土したため新しい遺構

である。

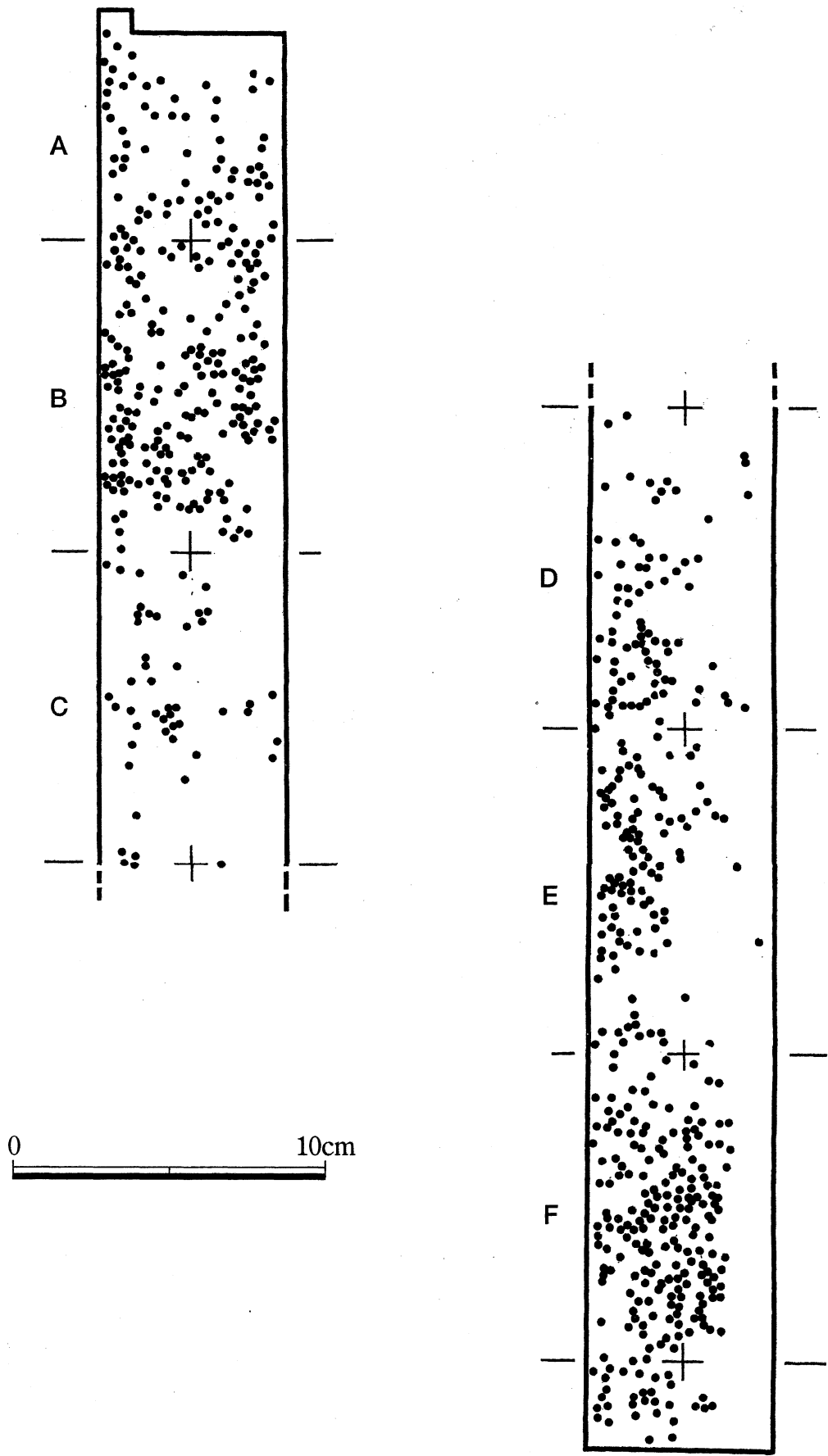
- 1月19日(月) 全区画3層面掘り下げ。土器片多数出土。A、B区画3層遺物出土状況実測。
- 1月20日(火) 全区画3層面掘り下げ。
- 1月21日(水) 全区画3層面掘り下げ。A、B区画3層下部より土器片多数出土。
- 1月22日(木) 全区画3層面掘り下げ。C、D区画3層遺物出土状況実測。写真撮影。
- 1月26日(月) 全区画3層面掘り下げ。E、F、G区画3層面遺物出土状況実測。写真撮影。
- 1月27日(火) 全区画4 a層面掘り下げ。
- 2月2日(月) 全区画4 a層面掘り下げ。土器片多数出土。
- 2月3日(火) 全区画4 a層面掘り下げ。土器片多数出土。
- 2月4日(水) 全区画4 a層面掘り下げ。A、B、C区画4 a層遺物出土状況実測。
- 2月5日(木) 全区画4 b層掘り下げ。土器片、石器数点出土。
- 2月6日(金) 全区画4 b層掘り下げ。
- 2月9日(月) 全区画4 b層掘り下げ。
- 2月10日(火) 全区画4 b層掘り下げ。B、C区画より土器片数点出土。
- 2月12日(木) 全区画4 b層掘り下げ。
- 2月13日(金) 全区画4 b層掘り下げ。
- 2月16日(月) 全区画5層掘り下げ。D、E区画より土器片数点出土。
- 2月17日(火) 全区画5層掘り下げ。B、C、D、E区画4 b層遺物出土状況実測。写真撮影。
- 2月18日(水) 全区画5層掘り下げ。
- 2月23日(月) 全区画5層掘り下げ。午後より雨の為作業中止。
- 2月24日(火) 全区画5層掘り下げ。B、C区画より土器片数点出土。
- 2月25日(水) 全区画5層掘り下げ。
- 2月26日(木) 全区画5層掘り下げ。
- 2月27日(金) 全区画5層掘り下げ。
- 3月2日(月) 全区画6層掘り下げ。D、E区画5層遺物出土状況実測。写真撮影。
- 3月3日(火) 全区画6層掘り下げ。D、E、F区画より土器片数点出土。
- 3月4日(水) 全区画6層掘り下げ。
- 3月5日(木) 全区画6層掘り下げ。
- 3月6日(金) 全区画6層掘り下げ。
- 3月9日(月) E、F区画7層、8層掘り下げ。
- 3月10日(火) D区画7層掘り下げ。E、F区画西壁層位断面図実測。写真撮影。
- 3月11日(水) D区画8層掘り下げ。C区画7層掘り下げ。
- 3月16日(月) D区画西壁断面図実測。写真撮影。C区画8層掘り下げ。グリッド位置図実測。
- 3月17日(火) B区画7層掘り下げ。
- 3月18日(水) B区画7層掘り下げ。
- 3月19日(木) A区画7層掘り下げ。



第1図 池袋遺跡位置図



第2図 池袋遺跡グリッド配置図



第3図 遺物出土状況

第2章 調査の概要

1) 調査の概要

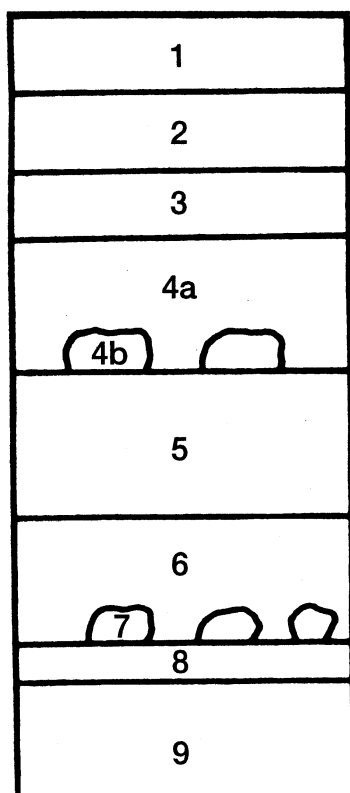
調査区域は、松山町泰野内ノ野集落にあり、標高約200mで宮田山の裾野に位置する。県道柿木志布志線から宮田山方向に伸びる農道が整備される予定の範囲で、昨年度確認調査行って、遺跡の範囲と思われる所を中心に、重機により表土から2層を掘り上げ、10m間隔でAからGまでグリッドを設定した。調査面積は横6m×70mの420㎡である。

その結果、E、F区3層より弥生時代中期の遺物が出土し、全調査区の4a層から縄文時代晩期、後期の遺物が出土した。更に5層及び6層からも縄文時代早期の遺物が出土している。しかし、遺構は近・現代のものと思われる溝状遺構と土壇が2基検出されただけであった。

遺跡は全体的に南に傾斜する地形で、特にF区は2層が厚く3層以下は傾斜が激しい。町内の他の遺跡に比べて5層、6層が20～30cmと薄い。また、7層の残りが悪く残存する区画もあるが、確認出来ない所が多かった。

2) 標準土層

- 1層 暗褐色耕作土。色調により2～3層に区分できる。
- 2層 黒色腐植火山灰土層。黒色微粒の植壤土で、やや粘質を帯びる。
- 3層 明黄褐色軽石質火山灰土層。きわめて淘汰のよい直径5mm前後の黄褐色軽石を含み、サラサラしている。霧島火山御池軽石層に対比できる。



第4図 土層模式柱状図

- 4a層 褐色腐食火山灰土層。直径1mm前後の黄橙色軽石を多く含む。4b（アカホヤ）層の二次堆積層とおもわれる。
- 4b層 明褐色火山灰土層。上位のフカフカした新鮮な火山灰と下位の砂粒、火山豆石を含む薄層理層とに区分できる。安定した層をなさず5層下部にブロック状に点在している場所も見られる。鬼界カルデラ起源のアカホヤ層に対比できる。
- 5層 灰褐色火山灰土層。直径1cm前後の黄橙色軽石および直径5mm前後の青灰色安山岩小礫を多く含む。
- 6層 黒褐色腐食土層。直径5mm前後の黄橙色軽石および直径5mm前後の青灰色安山岩小礫を多く含み、割合に硬くしまっている。5層との境は不明瞭で漸移している。
- 7層 茶褐色腐食土層。やや粘質を帯びる。ほぼ10cmから15cmの厚さで堆積している。
- 8層 黄褐色火山灰土層。割合に硬くしまった粘土化した火山灰土で、6層下部にブロック状にはいる。桜島起源の「薩摩層」に対比できる。一部に見られるだけで、全体的に残りが悪い。
- 9層 灰褐色土層。石や礫を多く含む。

3) 出土土器・石器

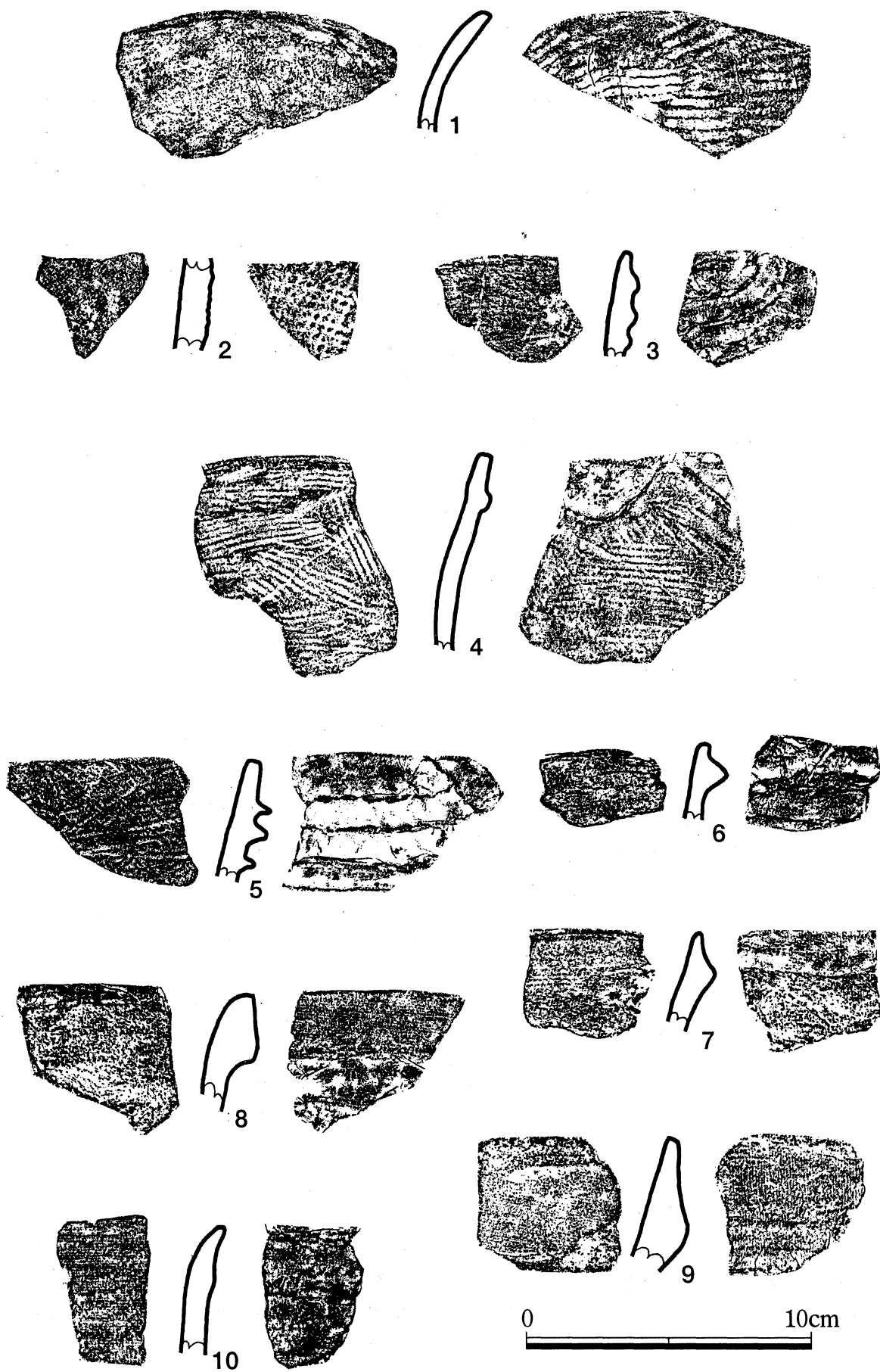
池袋遺跡からは土器の破片と石器が出土した。そのうち図化できるものを本書では取り上げた。

第1表 土器観察表

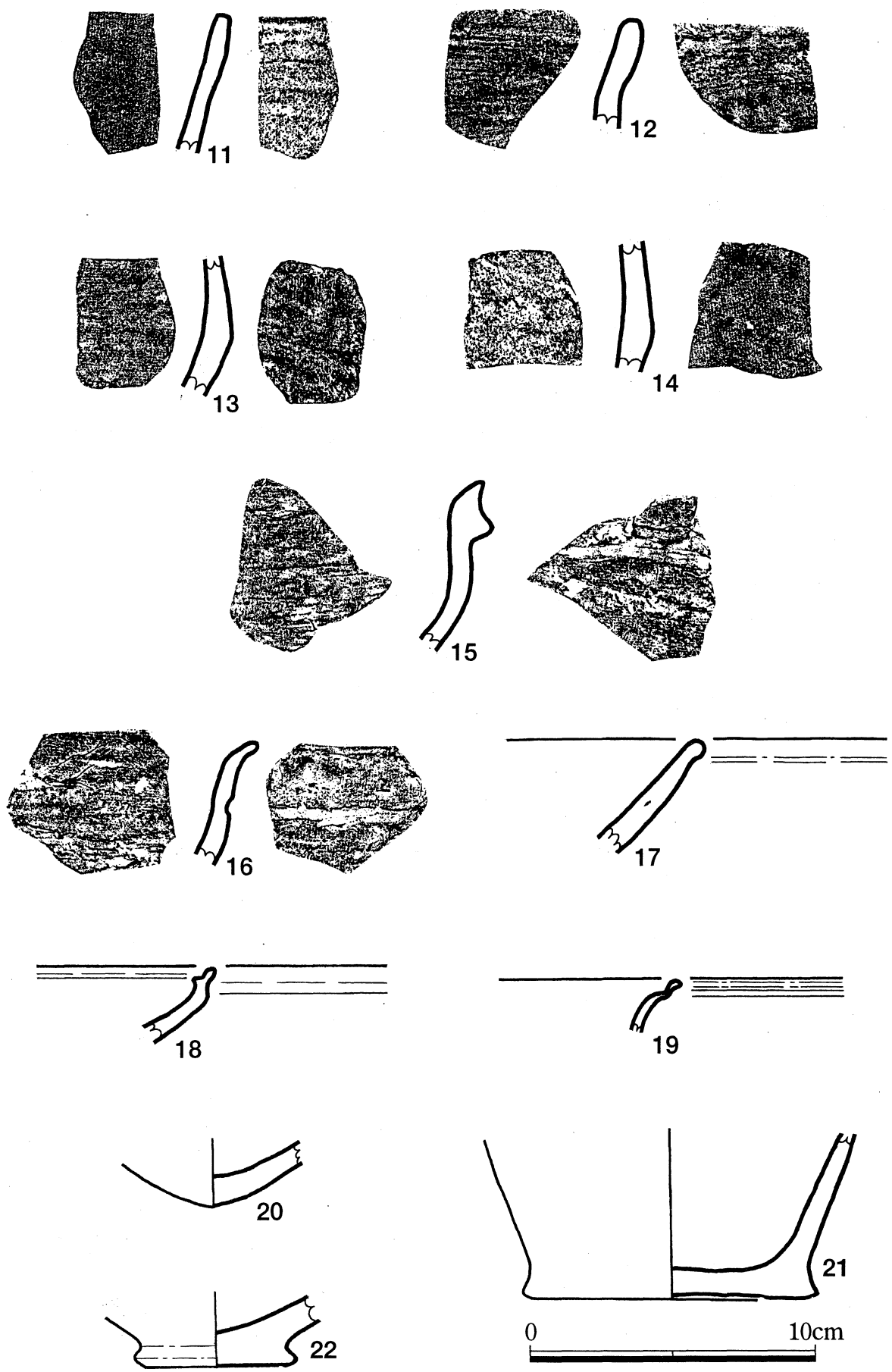
遺物番号	層	胎土	焼成	色調		内面調整	文様その他
				外面	内面		
1	6	石英・長石・砂粒	良好	褐色	茶褐色	————	外面に撚糸文を施す。
2	6	石英・長石・砂粒	良好	黄褐色	茶褐色	————	
3	5	石英・砂粒	良好	黒褐色	暗褐色	貝殻条痕のちなで	外面に突帯を施す。
4	5	石英・長石・砂粒	良好	暗茶褐色	暗茶褐色	貝殻条痕のちなで	外面に突帯を施す。
5	5	石英・長石・砂粒	良好	茶褐色	茶褐色	貝殻条痕のちなで	外面に突帯を施す。
6	5	石英・長石・砂粒	良好	茶褐色	暗茶褐色	貝殻条痕のちなで	
7	4b	石英・長石・砂粒	良好	褐色	褐色	貝殻条痕のちなで	
8	4b	石英・長石・砂粒	良好	明茶褐色	明茶褐色	————	
9	4b	石英・長石・砂粒	良好	暗茶褐色	暗茶褐色	ナデ	
10	4b	石英・長石・砂粒	良好	暗茶褐色	暗茶褐色	————	
11	4a	石英・長石・砂粒	良好	黒褐色	暗茶褐色	ナデ	
12	4b	石英・長石・砂粒	良好	黒褐色	暗茶褐色	ナデ	
13	3	石英・長石・砂粒	良好	暗茶褐色	暗茶褐色	ヘラケズリ後ナデ	
14	3	石英・長石・砂粒	良好	暗茶褐色	暗茶褐色	ヘラケズリ後ナデ	
15	3	石英・長石・砂粒	良好	暗褐色	黄褐色	ヘラケズリ後ナデ	
16	3	石英・長石・砂粒	良好	暗褐色	黄褐色	ヘラケズリ後ナデ	外面に凹線を施す。
17	3	石英・長石・砂粒	良好	黄橙褐色	黄褐色	ヘラケズリ後ナデ	
18	3	石英・長石・砂粒	良好	暗褐色	暗褐色	ヘラケズリ後ナデ	口唇部に凹線を施す。
19	3	石英・長石・砂粒	良好	明褐色	暗褐色	ヘラケズリ後ナデ	
20	3	石英・長石・砂粒	良好	明褐色	黒褐色	櫛状工具による調整	
21	3	石英・長石・砂粒	良好	橙褐色	暗褐色	貝殻条痕のちなで	
22	3	石英・長石・砂粒	良好	暗褐色	暗褐色	————	
23	3	石英・長石・砂粒	良好	橙褐色	橙褐色	櫛状工具による調整	穿孔を伴う。
24	3	石英・長石・砂粒	良好	橙褐色	橙褐色	ナデ	
25	3	石英・長石・砂粒	良好	暗褐色	暗茶褐色	ナデ	
26	3	石英・長石・金雲母・砂粒	良好	暗褐色	明茶褐色	ハケ	三角突帯を二条有す。
27	3	石英・長石・砂粒	良好	橙褐色	橙褐色	————	

出土土器

池袋遺跡から出土した土器は、多数あったがすべて破片であった。1は口縁部でラップ状に外反する器形である。外面に撚糸文を施す。2は胴部片である。外面に連続した押し型文を施す。1、2は縄文時代前期の土器であると思われる。3は口縁部片である。外面に突帯を施す。4は胴部から口縁部にかけて若干ラップ状に外反する器形で、外面に突帯を施す。内外面とも貝殻による調整を施している。5はほぼ直立した口縁部で、外面に三本の突帯を施す。6は口唇部に突帯を施す口縁部片である。3～6は縄文時代

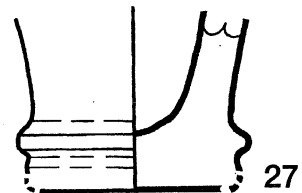
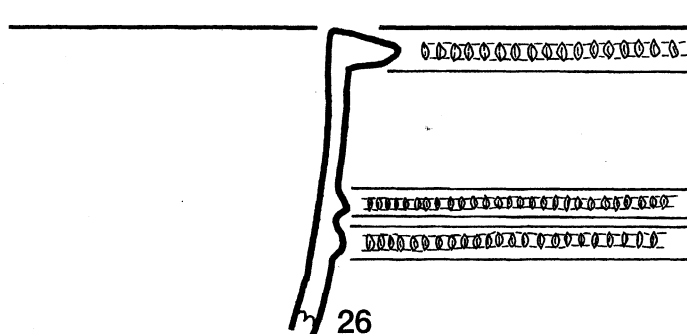
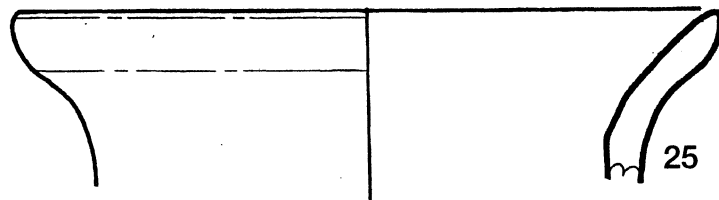
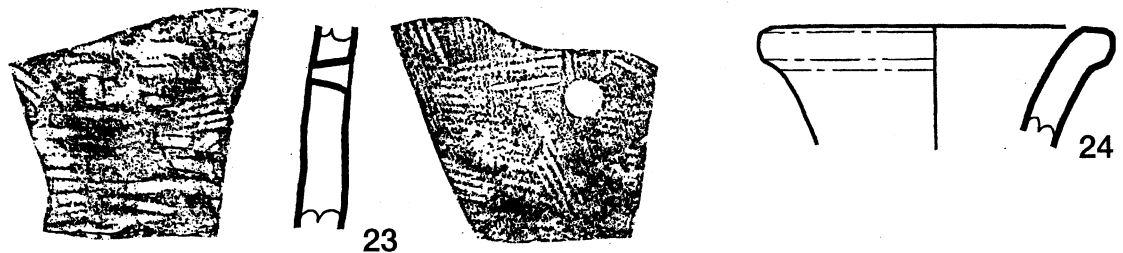


第5图 出土土器 (1)

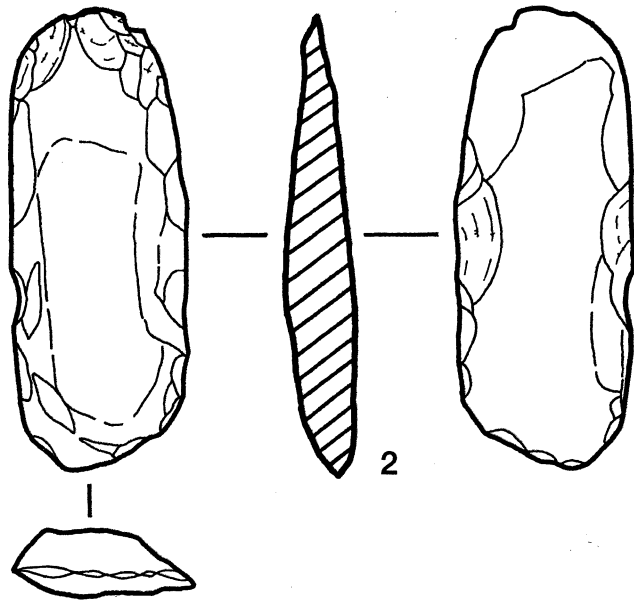
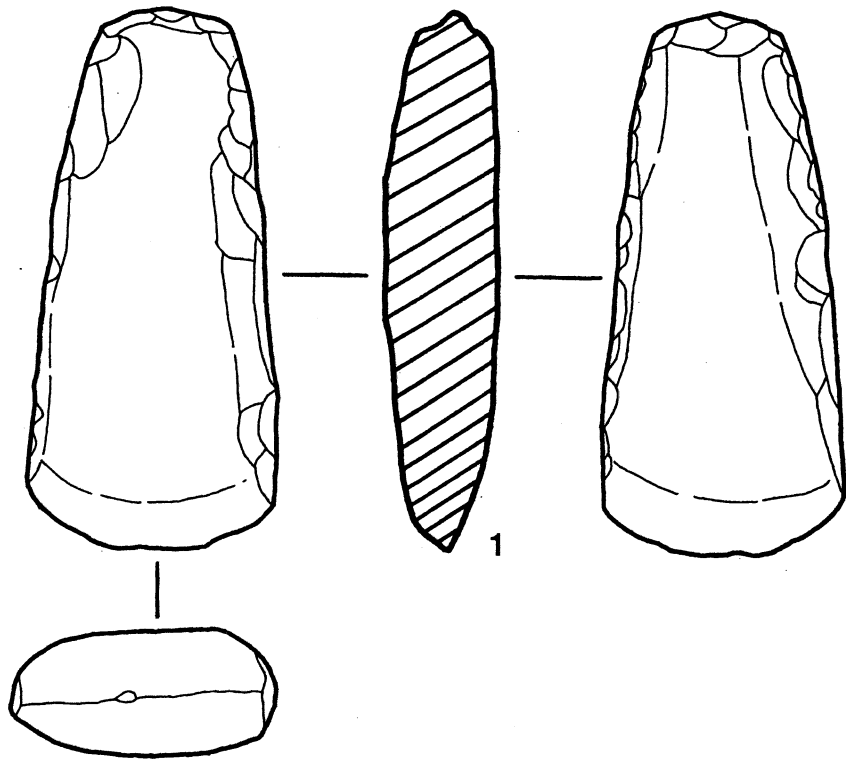


第6图 出土土器 (2)

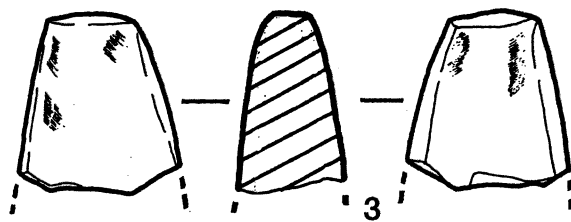
中期の土器と思われる。7は口縁部片で頸部から口縁部にかけて外反し、口唇部が肥厚する器形である。8も口唇部が肥厚し、外反する器形である。9は同じく口唇部が肥厚し、外反する器形であるが、その面積が広がり突帯に近くなった口縁部である。10は口唇部の肥厚が少なくなって、ほぼ突帯状になった口縁部片である。11、12は口縁部の肥厚がほとんど無くなって、若干跡が残る程度になった器形である。7～12は縄文時代後期の土器であると思われる。13、14は胴部片である。内外面ともヘラケズリのあとナデ調整を施す。15は口縁部が肥厚し、口唇部がくぼむ器形の浅鉢である。16～19とも口縁部が外反する器形の浅鉢で、内外面ともヘラケズリのあとナデ調整を施す。16は調整が粗く摩耗も著しい。13～19は縄文時代晩期に相当する土器と思われる。20は尖底の底部である。外面に櫛状の工具による調整の跡が認められる。21は平底の底部で内外面とも貝殻による調整を施す。22は平底の底部である。23は胴部片で補修のための穿孔が施された土器である。内外面とも櫛状の工具による調整を施す。縄文時代の土器であるが時期は不明である。24、25は頸部から口縁部にかけて外反する器形である。26は甕の口縁部である。口唇部に刻みを施し、頸部に二条の三角突帯を付し、突帯に刻みを施している。弥生時代中期に該当する土器であると思われる。27は平底の底部で器形は甕である。弥生時代中期に該当する土器である。



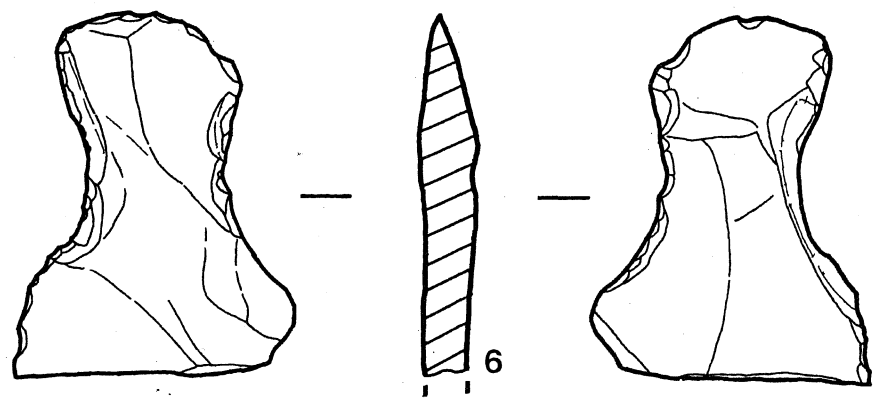
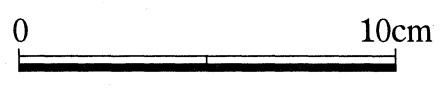
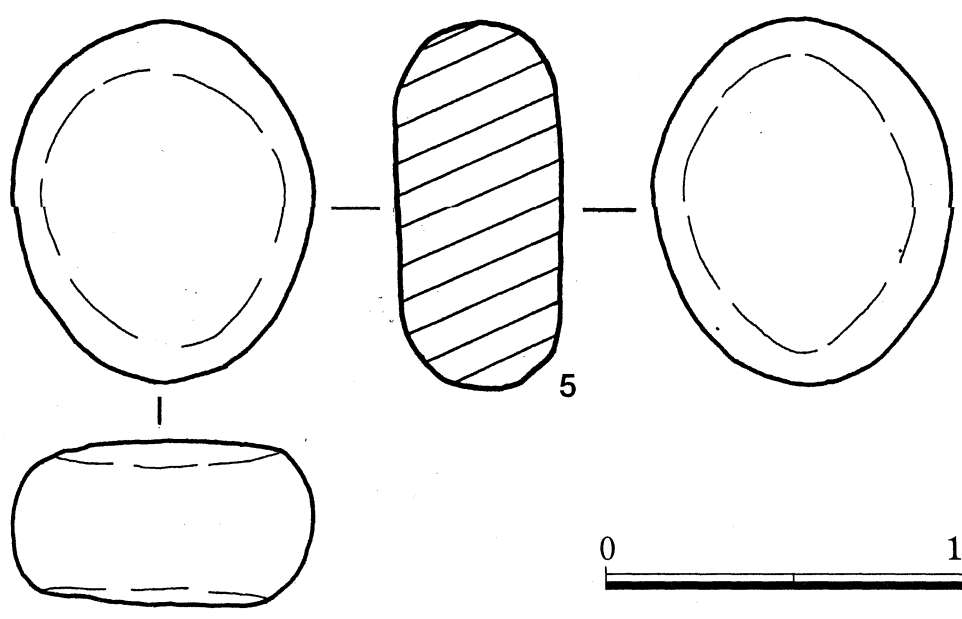
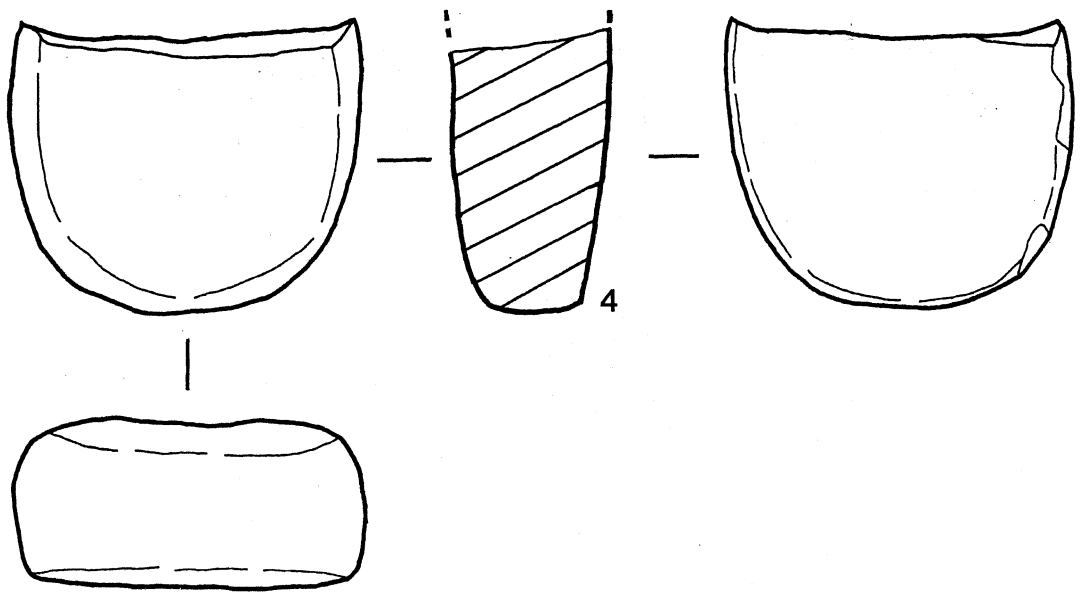
第7図 出土土器 (3)



0 10cm



第8图 出土石器(1)



第9图 出土石器(2)

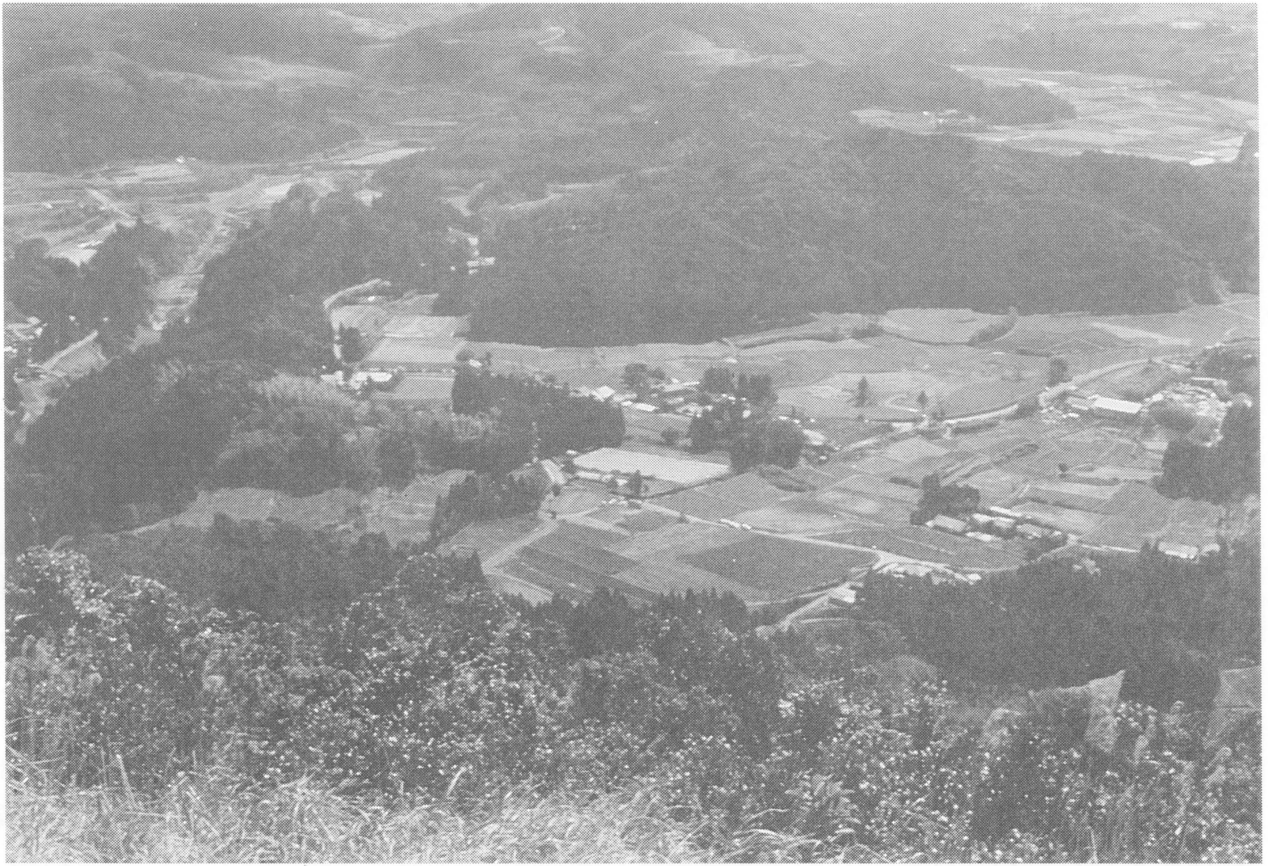
出土石器

石器は石斧、すり石、石皿、石鏃等が出土した。ここではその内石斧、すり石を図化した。1は磨製石斧である。石材は貢石である。2は磨製石斧であるが調整は粗い。石材は貢石である。3は半分欠損した磨製石斧である。丁寧な研磨を施している。石材は貢石である。4はすり石半分欠損したすり石である。一部に工打跡がみられる。石材は砂石である。5はすり石である。石材は砂石である。6は半分欠損した有肩石斧である。石材は花崗岩である。どの石器とも具体的な時期は不明である。

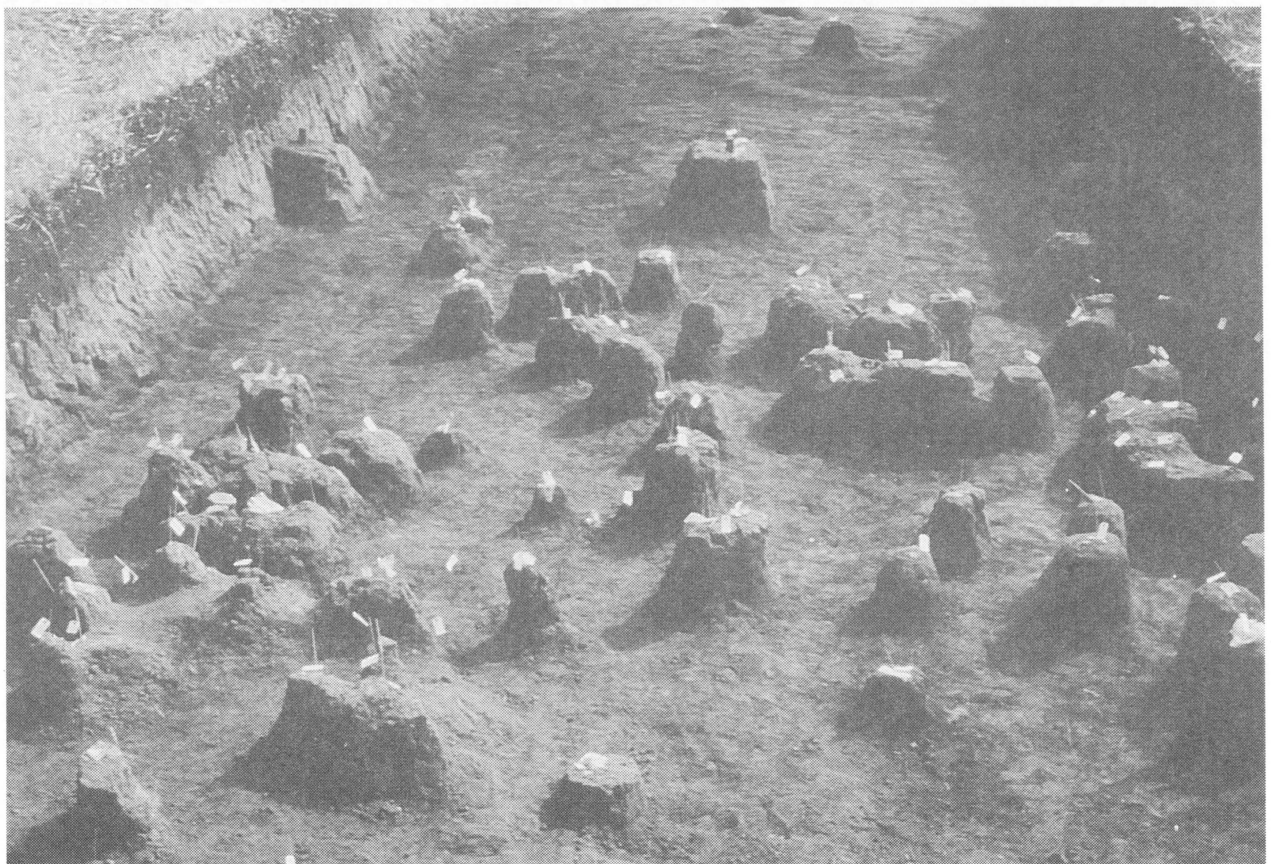
第3章 まとめ

今回の調査では住居跡や土壌などの遺構は検出出来なかったが、縄文時代前期から弥生時代中期にわたる長い時期の遺物が多数出土した。このことはこの遺跡が数千年に渡って存在したことを証明している。地形的にも傾斜地で大規模な集落を形成するには難しいため、小規模な集落であったと思われる。遺跡の近く（約200m先）に小さな川があり、南東方向を一望に見渡せる地形に立地しているため生活条件はかなりよい。しかし、7層以下の状態をみれば、この遺跡が土石流などの災害を受けいていた可能性が高い。また、同じ泰野地区に所在する前谷遺跡では木の実を貯蔵した土壌が多数見つかっており、池袋遺跡の背後に宮田山を配する地形のため、前谷遺跡同様木の実を貯蔵した土壌も存在すると思われる。

池袋遺跡からも縄文時代中期の春日式土器が出土している。松山町では前谷遺跡、京ノ峯遺跡でも出土しているが、いずれも地形的に松山町の中心部にあたる泰野地区である。当時この地区に数箇所の集落が存在していたことが伺える。



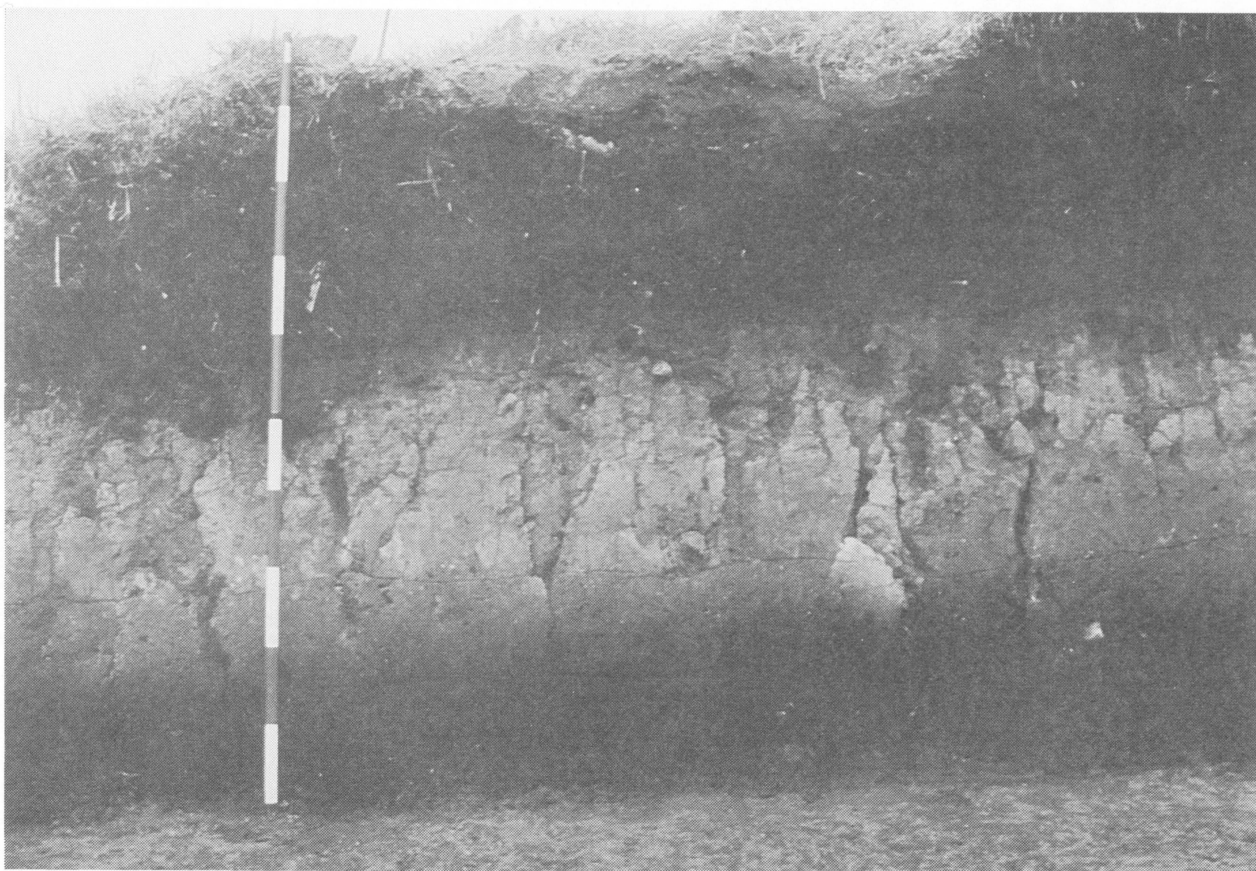
図版1 遺跡遠景



図版2 遺物出土状況



図版 3 遺物出土状況



図版 4 層位断面図

松山町埋蔵文化財発掘調査報告書 (13)
農地浸食防止 (県営シラス対策) 関連事業池袋地区に
伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

池 袋 遺 跡

発行日 1998年3月
発 行 松山町教育委員会
鹿児島県曾於郡松山町新橋268番地
印 刷 志布志新生社印刷
鹿児島県曾於郡志布志町
志布志東町3223-7